

令和元年度長崎大学市民公開講座

【日時】令和元年 12月10日(火) 15:30-17:30

【場所】長崎大学文教キャンパス 中部講堂

【対象】一般(学内教職員・学生含む)

【参加者】283名

【プログラム】

【開会挨拶】河野 茂(長崎大学 学長)

【基調講演】高田 明氏(株式会社 A and Live 代表取締役)
「夢持ち続け日々精進～変える勇気と行動を～」

【閉会挨拶】吉田ゆり(長崎大学副学長、ダイバーシティ推進センター長)

【総司会】中澤紀子(長崎大学ダイバーシティ推進センター 助教)

【開催内容】

1. 開会挨拶

まず、河野茂学長より挨拶がありました。挨拶では、本学では女性教員を2020年度までに23%、かつ女性教授を2024年度までに16%にする数値目標を掲げております。そのために研究環境を整えることが重要となってまいります。

本日の市民公開講座において、今後、大学として、また長崎全体としてダイバーシティの社会をどのようにして作っていくかということを目指したいと述べられました。

2. 基調講演

高田明氏による基調講演「夢持ち続け日々精進～変える勇気と行動を～」では、ご自身の半生を振り返りつつ、日々この瞬間を大事にし「今を生きる」ことでダイバーシティという多様性の品質を高めることができ、それが変化を起し、人生を豊かにすることができるかと説明いただきました。

まず、女性は男性の10倍の仕事をしており、女性の業務対価は計り知れないと言われました。また、母性愛を超えるものはなく、世の中の指導者が女性に代わることで戦争は起らないだろう。女性の存在はそれほど大きいと述べられました。

人は、気持ちの持ち方が一番大事です。落ち込むこともあるが、過去にとらわれることなく、今を頑張って生き、様々なことを受け入れることが大切です。気持ちが変わった瞬間に奇跡は起こり夢が叶うのです。また、一生懸命やっている「つもり」では今を変えることができません。人は伝えたつもりでも伝わっていないことが多いのです。伝わることは多少なりとも、世の中の問題を解決するヒントになるかもしれません。格差社会や学歴に左右されず、与えられた環境の中で常に強い心と前向きな心で人生ポジティブに明るく生きる自分を作ることが、幸せをもたらすのです。経験を積むことにより多様性が生まれ、変化を起こすことができます。また、多様性の品質を高めることで、多くの人に影響を与え、リーダーシップを取れるのです。また、目標に近づく世界を築いていくことができるのです。そのためには一生懸命、今を生きることが人生で最も大事な事であると述べられました。

また、人は何歳になっても夢を持たなければなりません。世阿弥の「初心忘るべからず」にあるように、何歳になっても初心があります。変化しながら夢を持ち続け、今を一所懸命生きることにより日々精進する。そこに実現性がでてくるのです。

地方創生は、そこで働く人の努力を示すことから始まります。それを伝えることにより世界に広まっていくのです。さらに伝えることで10倍の効果を生むのです。これを何度も何度も繰り返すことが大切です。また、「間」も大切です。「間」は相手と会話するためのツールであり、次の「有」を生み出すための「無」です。さらに言葉以外にも「非言語の力」という表情や動きで自分を伝えることも大事であることが述べられました。

最後に、長崎は人口減少が問題ですが、変わろうとしています。長崎が日本一の地方創生を達成できるよう頑張りたいと締めくくられました。



3. 閉会挨拶

最後に、吉田副学長より挨拶がありました。

今日は多様性について新たな視点、また、高田氏の考える多様性を伺うことができました。

ダイバーシティ推進センターにとっても、長崎大学にとっても、会場の皆様にとっても強力な応援の言葉をいただきました。長崎の街で元気に生きていく、街自体を元気にしていくことが皆様に伝わったのではないのでしょうか。始めて高田氏のTV番組を拝見したとき「伝える」ことを感じることができました。新たな長崎大学、新たな長崎を共に生きていくために今日この時間、この場所で今を生きて行く事を皆様と共有できたことを喜びつつ、感謝したいと述べました。



本講座には、多くの皆様にお集まりいただきました。

参加者アンケートでは「夢を持ち続ける姿勢に強く感銘を受けました。人生100年時代を元気で活躍できるようにお話の中から、自分でもできることを実践していきたい」「何歳からでもチャレンジするのに遅いはないということ、勇気もらった」「伝える× 伝わる○ これを認識できただけでも大変有意義」「過去の自分にとらわれず前向きな心で明るくとにかく自分を信じてやり続けることに共感」「医療現場で働く者として、患者さんに伝える時の方法が印象に残った。「間」を大事にしたい」「1つのことをしっかりやっていく中に、多様性が生じてくるという話になるほどと思いました。何事も人生の中で必ずどこかに役立つということ納得」など、前向きな内容や、今後の参考としたいとの意見が多くありました。